

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
専門学校穴吹コンピュータカレッジ	昭和61年3月25日	篠原 達司	〒760-0017 香川県高松市番町2-4-14 (電話) 087-822-3001																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人穴吹学園	平成3年4月1日	穴吹 忠嗣	〒760-0020 香川県高松市錦町1-22-23 (電話) 087-823-2266																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
工業	工業専門課程	情報システム学科	平成15年文部科学省 告示第21号	—																			
学科の目的	コンピュータ全般の知識、プログラミング、システム設計、ネットワーク、サーバー構築などの技術を修得させ、ユーザの要望を満たす業務システムやスマートフォン(iPhone、Android)のアプリ開発ができる技術と企画提案力を兼ね備えた人材を養成する																						
認定年月日	平成26年3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
3年	昼間	2400	540時間	1860時間	0時間	0時間	0時間																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
60	44人	0人	5人	5人	10人																		
学期制度	■前期: 4月1日～8月31日 ■後期: 9月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 年2回の期末に各科目ごとの評価を行う 評価基準はA,B,C,Dの4段階とする																			
長期休み	■学年始: 4月 1日 ■夏季: 7月～8月で校長が定めた期間 ■冬季: 12月～1月で校長が定めた期間 ■学年末: 3月31日		卒業・進級 条件	①必修及び選択必修全科目の成績がC評価以上 ②必修及び選択必修全科目の出席が90%以上 上記条件を両方満たした学生に対して進級・卒業を認定する																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任が電話連絡や定期的なガイダンス実施、場合によっては保護者を交えたガイダンスなども早期に実施し、保護者と連携して問題解決をする		課外活動	■課外活動の種類 ・地域清掃のボランティア ・学園祭等の実行委員会など ・IT研修の実施 ■サークル活動: 有																			
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) システムエンジニア職、ネットワークエンジニア職、ウェブシステムエンジニア職、プログラマー職、システム運用管理職 等 ■就職指導内容 担任と就職担当職員が連携を取り、希望企業の斡旋し面接指導を繰り返す ■卒業生数 14 人 ■就職希望者数 13 人 ■就職者数 13 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 92.8 % ■その他 ・フリーランスのエンジニアとして就業 1人 (令和 2 年度卒業者に関する 令和3年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	基本情報技術者	③	14人	9人	応用情報技術者	③	9人	2人				
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
基本情報技術者	③	14人	9人																				
応用情報技術者	③	9人	2人																				
中途退学 の現状	■中途退学者 1名 令和2年4月1日時点において、在学者48名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者47(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 就職の為 ■中退防止・中退者支援のための取組 欠課率が5%を超えた段階で担任とのガイダンスを行い、その後、教務部部長(保護者同席)とのガイダンスを行う 経済的な問題の場合は、事務局のガイダンスを覆ない、解決策を探す 精神的な問題の場合は、教員で対応できるレベルを超えた場合は外部カウンセラーに依頼する		■中退率 2%																				
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 無 ・穴吹学園経済的支援奨学生制度 ・穴吹カレッジ学費分割制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象																						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 無																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 企業や各種団体等との連携により、該当学科で必要とされる知識や技術について、カリキュラムの改善・構築等を目的とした教育課の編成を行う。卒業後、即戦力となれる専門性と社会性を兼ね備えた人材を育成するため、カリキュラム内容については、連携企業や団体等と意見交換を行い、常に時代のニーズに即しているか定期的に点検を行い、改善を盛り込む

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設立し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年10月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
溝 淵 俊 寛	香川県情報サービス産業協議会	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	①
葉 田 佳 孝	西日本電信電話株式会社 香川支店	令和3年年4月1日～ 令和3年7月31日	③
北 川 智 之	西日本電信電話株式会社 香川支店	令和3年年8月1日～ 令和4年3月31日	③
古 川 康 造	高松丸亀町商店街振興組合	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	③
瀧 下 直 樹	株式会社ジーン 第1開発事業部 技術部 高松開発室	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	③
石 元 啓 介	株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	③
篠 原 達 司	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 校長	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	
戸 倉 潤 也	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 副校長	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	
塩 田 和 正	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 課長	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	
榎 本 靖 之	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 担当課長	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	

※委員の種別の欄には、**企業等委員の場合には**、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (12月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年12月22日 10:00～12:00

第2回 令和3年 2月26日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

ITに関わる教育を行う学校として、IT人材を育てたいという社会の流れに上手に協調できる為には何が必要かという問題意識が必要である。カリキュラム策定するにあたって、地元香川県、高松市が求めているIT人材とはどのような人材をいうのかを、チェックすることも必要ではないかとの意見をいただいた。広報就職・キャリアセンターと連携し、卒業生の活躍状況等の情報を分析しカリキュラムの検討を行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 業界で求められる必須の専門知識や実践的なシステム開発技術の修得はもとより、交渉力、プレゼン力などのコミュニケーションスキルなども身に付けることが出来るよう、それぞれの専門職に特化したカリキュラム・授業内容を連携企業や各種団体等と協力して構築・実施する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 学生にとって効果的な授業となるよう、当校における授業科目の目的や内容を事前によく打ち合わせを行い、企業と学校が共通理解・共通努力をする。科目の全時間を企業が担当する場合は、シラバスを授業担当者がその期が始まる前に作成し、年度末に行われる各学科の担当者会議に持ち寄り意見交換し授業内容を決定する。また、担当の授業部分に関しては、期末に成績評価を企業担当者が行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
卒業制作 (企画・設計)	企業のプロジェクトチームという設定で、現状の業務やシステムに対する新しい提案を行い、システム構築に必要な要求定義をまとめる能力を、演習を通し理解する	株穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部
卒業制作	前期に企画したシステムをプロジェクトチームの一員として、システム完成を目指し、学んできたプログラム言語やシステム開発の知識を実務に応用する力を習得する	株穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 教職員研修規程に従い、新たに採用した教職員に対して「新任者研修」、管理職教職員に対して「管理職研修」、専門分野における実務に関する「養成研修」を教職員の業務経験や能力に応じて実施する。
 「養成研修」は、該当学科の教育に必要な専門知識や技術、技能の修得と、企業人として不可欠であるキャリアプランニングやマネジメント能力、コミュニケーションスキルなどの指導力向上を目的とし、企業や各種団体等との連携のもと、実践的な研修を計画的に実施する。

(2)研修等の実績
 ①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「機械学習の基本ワークフローの理解」(連携企業等:シフトシステム株式会社)
 期間:令和3年8月2日(月) 対象:情報システム学科担当教員
 内容:機械学習に必要な「データの可視化と分析」「機械学習の手法」「深層学習の手法」について上記企業が実施

研修名「予測精度の高い深層学習モデルの構築」(連携企業等:シフトシステム株式会社)
 期間:令和3年8月3日(火) 対象:情報システム学科担当教員
 内容:機械学習に必要な「データの可視化と分析」「機械学習の手法」「深層学習の手法」について上記企業が演習を交えて実施

②指導力の修得・向上のための研修等
 研修名「森ゼミ教材の教職員研修」(連携企業等:株式会社穴吹カレッジサービス)
 期間:令和3年3月18日(木)19日(金) 対象:情報システム学科担当教員
 内容:穴吹学園の就勝ゼミで指導された森吉弘様監修の就職活動教材の使い方、動画コンテンツの効果的な利用法を上記企業が実施

(3)研修等の計画
 ①専攻分野における実務に関する研修等
 研修名「いかに楽しく実践的なデータサイエンスを教えるか」(連携企業等:株式会社ビーアライブ)
 期間:令和3年11月25日(木) 対象:情報システム学科担当教員
 内容:専門学校向けデータサイエンスカリキュラムとオンライン試験システムを使った教育コンテンツについて上記企業が実施

②指導力の修得・向上のための研修等
 研修名「相手に「伝わる」プレゼンテーションの奥義！」(連携企業等:富士通株式会社)
 期間:令和3年12月14日(火) 対象:情報システム学科担当教員
 内容:『わかりやすいプレゼン』の一步先を行く『あなたらしさがあり、人の心を掴むプレゼン』の極意について学ぶ

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- ① 関係者ならではの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける
- ② 自己点検評価の適性化、妥当性を客観的に評価する
- ③ 結果として職業に必要な実践的かつ専門的な能力がより修得できる改善計画をし、PDCAサイクルを繰り返し続ける

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像は、定められていますか
(2) 学校運営	運営方針は教育理念等に沿ったものになっていますか
(3) 教育活動	教育理念、育成人材像に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されていますか
(4) 学修成果	資格・免許取得率の向上が図られていますか
(5) 学生支援	退学率の低減が図られていますか
(6) 教育環境	教育上、必要、かつ、十分な種類・数の施設・設備が整備されていますか
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動を積極的、かつ、効果的に行っていますか
(8) 財務	学校及び設置者(法人)の収支、財政基盤は安定していますか
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準・各種学校規程及び関係法令の遵守と、適正な運営がなされていますか
(10) 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っていますか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会での意見を受け、平成27年度から学習支援が必要な学生のサポートとして「学びプラス」を設置し、放課後等に支援授業をしている。教員の教授力向上のために研修を実施しており、今後は研修以外にも教員のインターンシップを実施する予定。学生の就職のミスマッチを防ぐため、定期的なガイダンスで希望業種・職種や就職に対する不安などを把握する。また社会人基礎講座の授業でコミュニケーション力の向上に繋がる取り組み(卒業生座談会・グループディスカッション等)を増やしている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
小川 幸彦	元高等学校校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	高等学校 関係者
山下 達雄	香川県立高松東高等学校 校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	高等学校 関係者
石元 啓介	株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委 員
高岸 良一	株式会社たかせんテレコム	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委 員
島 薫	株式会社パオ・フィール	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委 員
細川 翔登	株式会社ジーン	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委 員
山竹 仁美	在校生保護者	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://web.anabuki-college.net/content/uploads/ack-rating2.pdf>

公表時期: 令和3年3月10日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

基本的な教育の質向上を図ることを目的とし、情報提供の基本方針を以下のように定める。

- ・教育に関わる情報について、原則、公開する
- ・定期的に更新し、最新の情報を提供するように努める
- ・情報の提供に関してはインターネットでの提供を基本とする
- ・統計的な情報については算定方法など根拠となる情報も同時に提供する
- ・個人情報の扱いに留意し、特定の個人が特定できない情報として提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校名、所在地、学校の沿革、歴史
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、時間割、年間の授業計画
(3) 教職員	教職員数(職名別)、教職員の組織、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況、実習・実技等の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支報告書、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL:<https://web.anabuki-college.net/disclosure/>

授業科目等の概要

工業専門課程情報システム学科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			コンピュータ概論	国家資格(基本情報技術者・応用情報技術者)取得に必要な、情報技術の基本的な知識を習得する。	1前	120	8	○			○	○			
2	○			ネットワーク概論	国家資格(基本情報技術者・応用情報技術者)取得に必要な、情報技術特にネットワーク分野の基本的な知識を習得する。	1前	30	2	○			○	○			
3	○			表計算	基本情報技術者試験の午後分野表計算を理解する。表計算問題で出題されるマクロ問題と国家試験必須問題である擬似言語問題を理解する。	1前	60	4	○			○	○			
4	○			アルゴリズム	プログラミングに必要な手順や計算法であるアルゴリズムについて学習し、国家資格(基本情報技術者)の科目(フローチャート・擬似言語)の理解度を高める。	1前	60	4	○			○	○			
5	○			J a v a I	java言語の基本制御文(順次、分岐、繰り返し)を利用したプログラミング能力を身につける。オブジェクト指向の基本概念であるクラスを使ったプログラムを考える。	1前	60	2		○		○			○	
6	○			システム開発概論	国家資格(基本情報技術者)取得に必要な、コンピュータシステムの開発技術やマネジメント知識を習得する。	1前	90	6	○			○	○			
7	○			J a v a II	オブジェクト指向を主軸としたjavaの文法を習得する。例外処理やマルチスレッドなど、本格的なプログラミングに必須の技術を習得する。	1後	90	3		○		○			○	
8	○			ネットワーク演習	システムエンジニアとして必要なネットワーク技術の基本を習得する。	1後	60	2		○		○	○			
9	○			インターネット実習基礎	ホームページを作成するための言語をツールを使わずにHTML, CSSを学ぶ。	1後	60	2		○		○			○	
10	○			情報処理講座I	基本情報技術者試験、応用情報技術者試験の午後試験分野対策を行う。	1後	80	2		○		○	○			
11	○			データベース設計演習	SQLの基礎を理解する	1後	90	3		○		○	○			
12			○	インターンシップI	将来のキャリアに関連した就業体験にて、実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や職業選択について深く考え、就職活動の方向性についての基礎的な理解を得る	1後	96	2			○		○			

25	○		アジャイル開発演習	スパイラルモデル、アジャイル、スクラムでの開発手法に基づいたシステム開発を行う。開発手法を通じて、開発チームで必須のコミュニケーション能力を養う。	3前	90	3		○		○											
26	○		AI概論	人工知能(AI)特に、機械学習、深層学習の概念理解を行う	3前	30	2	○			○			○								
27	○		卒業制作(企画・設計)	これまで学んできたことを基に、今問題となっていることを解決できるシステム・アプリを企画する。また後期の実装工程をにらみ、実現方法を確定する。	3前	60	2		○			○			○						○	
28		○	IoT開発応用	発展した電子回路を組み立てる。ESP32を使用しインターネットへの情報発信を学習する。	3前	60	2		○			○									○	
29		○	AWSクラウド演習Ⅱ	基本的なAWS(Amazon Web Service)のサービスを利用するうえで必要な基本的な知識を学ぶ	3前	60	2		○			○			○							
30	○		ビジネスプレゼン演習	企業で日常的に行われるミーティングや改まった場でのプレゼンテーション、LT(ライトニングトーク)など、様々な場所や機会に応じた、的確で効果的な対応能力を養う。	3前	30	1		○			○									○	
31	○		社会人基礎講座Ⅱ	一般常識・マナーについて学ぶとともに、自己分析を行い就職活動でアピールできる材料を準備する。	3前	30	2		○			○			○							
32	○		ビジネス文書	社内や取引先との間で交わされる報告書、礼状などのビジネス文書作成時に必要な知識や技能を養う。	3前	60	4		○			○			○							
33	○		AWSクラウド演習	基本的なAWS(Amazon Web Service)のサービスを利用するうえで必要な基本的な知識を学ぶ	3後	60	2		○			○			○							
34	○		AIプログラミング演習	Pythonの基本的な使い方を知る 自然言語処理の基礎を理解する 基本的な予測方法を学ぶ	3後	60	2		○			○			○						○	
35	○		卒業制作	前期に企画した内容を元に製品を完成する。プロジェクトチームの一員として、協調してより良いシステム開発を目指す。	3後	230	7		○			○			○						○	○
36	○		ビッグデータ活用演習	マーケティングの基本を事例を基に学習し、データ分析・整理手法の基礎を学ぶ	3後	60	2		○			○			○						○	
37	○		社会人基礎講座Ⅲ	会社で信頼され、評価される社員像を理解し、それを長期の就労に活かすことを目標に「働く理由」を理解する。	3後	30	2		○			○			○							
37		○	インターンシップⅢ	将来のキャリアに関連した就業体験にて、実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や職業選択について深く考え、就職活動の方向性についての基礎的な理解を得る	3前	96	2			○			○									
合計					37	科目	2400単位時間(96	単位)	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①必修及び選択必修全科目の成績がC評価以上	1学年の学期区分	2期
②必修及び選択必修全科目の出席が90%以上 上記条件を両方満たした学生に対して進級・卒業を認定する	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
専門学校穴吹コンピュータカレッジ		昭和61年3月25日		篠原 達司		〒760-0017 香川県高松市番町2-4-14 (電話) 087-822-3001																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人穴吹学園		平成3年4月1日		穴吹 忠嗣		〒760-0020 香川県高松市錦町1-22-23 (電話) 087-823-2266																							
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																							
工業	工業専門課程	ゲームクリエイター学科			平成22年文部科学省 告示第30号	—																							
学科の目的																													
3Dやネットワークプログラミングなどの応用技術を修得させ、キャラクター、エフェクト、ステージ展開、サウンドなどの要素を、様々なプラットフォーム上で構築できる技術と人間力を兼ね備えたゲームプログラマを養成する																													
認定年月日																													
平成26年3月31日																													
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																						
3年	昼間	2400時間	490時間	1910時間	0時間	0時間	0時間																						
生徒総定員		生徒実員	留學生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																							
60人		48人	0人	4人	4人	8人																							
学期制度	■前期: 4月1日～8月31日 ■後期: 9月1日～3月31日			成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 年2回の期末に各科目ごとの評価を行う 評価基準はA,B,C,Dの4段階とする																							
長期休み	■学年始: 4月1日 ■夏季: 7月～8月で校長が定めた期間 ■冬季: 12月～1月で校長が定めた期間 ■学年末: 3月31日			卒業・進級条件		①必修及び選択必修全科目の成績がC評価以上 ②必修及び選択必修全科目の出席が90%以上 上記条件を両方満たした学生に対して進級・卒業を認定する																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任が電話連絡や定期的なガイダンス実施、場合によっては保護者を交えたガイダンスなども早期に実施し、保護者と連携して問題解決をする			課外活動		■課外活動の種類 ・地域清掃のボランティア ・学園祭等の実行委員会など ・ゲーム研修の実施 ■サークル活動: 有																							
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) ゲームプログラマ職 等			主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)																							
	■就職指導内容 担任と就職担当職員が連携を取り、希望企業の斡旋し面接指導を繰り返す					<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>C言語プログラミング</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	基本情報技術者	③	12人	2人	C言語プログラミング	③	12人	10人								
	資格・検定名	種	受験者数			合格者数																							
	基本情報技術者	③	12人			2人																							
C言語プログラミング	③	12人	10人																										
■卒業生数 12 人 ■就職希望者数 9 人 ■就職者数 9 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 %			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																										
■その他 ・進学者数: 1人			■自由記述欄																										
(令和2年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)																													
中途退学の現状	■中途退学者 3名 令和2年4月1日時点において、在学者41名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者38名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更			■中退率 7%																									
■中退防止・中退者支援のための取組 欠課率が5%を超えた段階で担任とのガイダンスを行い、その後、教務部部長(保護者同席)とのガイダンスを行う 経済的な問題の場合は、事務局のガイダンスを覆ない、解決策を探す 精神的な問題の場合は、教員で対応できるレベルを超えた場合は外部カウンセラーに依頼する																													
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有)無 ・穴吹学園経済的支援奨学生制度 ・穴吹カレッジ学費分割制度			■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: (有)無																												

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 企業や各種団体等との連携により、該当学科で必要とされる知識や技術について、カリキュラムの改善・構築等を目的とした教育課の編成を行う。卒業後、即戦力となれる専門性と社会性を兼ね備えた人材を育成するため、カリキュラム内容については、連携企業や団体等と意見交換を行い、常に時代のニーズに即しているか定期的に点検を行い、改善を盛り込む

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設立し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年10月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
溝 淵 俊 寛	香川県情報サービス産業協議会	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	①
葉 田 佳 孝	西日本電信電話株式会社 香川支店	令和3年4月1日～ 令和3年7月31日	③
北 川 智 之	西日本電信電話株式会社 香川支店	令和3年8月1日～ 令和4年3月31日	③
古 川 康 造	高松丸亀町商店街振興組合	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	③
瀧 下 直 樹	株式会社ジーン 第1開発事業部 技術部 高松開発室	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	③
石 元 啓 介	株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	③
篠 原 達 司	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	
戸 倉 潤 也	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 副校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	
塩 田 和 正	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	
榎 本 靖 之	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 担当課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	

※委員の種別の欄には、**企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。**

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (12月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年12月22日 10:00～12:00

第2回 令和3年 2月26日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

ITに関わる教育を行う学校として、IT人材を育てたいという社会の流れに上手に協調できる為には何が必要かという問題意識が必要である。カリキュラム策定するにあたって、地元香川県、高松市が求めているIT人材とはどのような人材をいうのかを、チェックすることも必要ではないかとの意見をいただいた。広報就職・キャリアセンターと連携し、卒業生の活躍状況等の情報を分析しカリキュラムの検討を行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

業界で求められる必須の専門知識や実践的なシステム開発技術の修得はもとより、交渉力、プレゼン力などのコミュニケーションスキルなども身に付けることが出来るよう、それぞれの専門職に特化したカリキュラム・授業内容を連携企業や各種団体等と協力して構築・実施する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学生にとって効果的な授業となるよう、当校における授業科目の目的や内容を事前にしっかりと打ち合わせを行い、企業と学校が共通理解・共通努力をする。科目の全時間を企業が担当する場合は、シラバスを授業担当者がその期が始まる前に作成し、年度末に行われる各学科の担当者会議に持ち寄り意見交換し授業内容を決定する。また、担当の授業部分に関しては、期末に成績評価を企業担当者が行う。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
3Dゲーム制作 I	基本的な3Dゲーム開発に取り組み、3Dゲーム開発手法を習得する。また、ゲーム作品のプレゼンテーションを行い、効果的なプレゼンテーションを習得する	(株)ジーン
AR制作演習	AR(オーグメントリアリティ)及びMR(ミックスドリアリティ)を実機で開発を習得させる	(株)ジーン
3Dゲーム制作 II	本格的な3Dゲーム開発に取り組み、より深く3Dゲーム開発手法を習得する。また、ゲーム作品のプレゼンテーションを行い、効果的なプレゼンテーションを習得する	(株)ジーン
Unity演習	XR技術に於けるゲームエンジン(UnityEngine)の基礎、応用技術の習得を行う。	(株)ジーン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
教職員研修規程に従い、新たに採用した教職員に対して「新任者研修」、管理職教職員に対して「管理職研修」、専門分野における実務に関する「養成研修」を教職員の業務経験や能力に応じて実施する。
「養成研修」は、該当学科の教育に必要な専門知識や技術、技能の修得と、企業人として不可欠であるキャリアプランニングやマネジメント能力、コミュニケーションスキルなどの指導力向上を目的とし、企業や各種団体等との連携のもと、実践的な研修を計画的に実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「第6回 Unreal Engine Education Summit」(連携企業等: EPIC GAMES JAPAN)

期間: 令和3年10月21日(木) 対象: ゲームクリエイター学科担当教員

内容: 教育関係者向けの最新Unreal Engine関連情報や、授業カリキュラムに関する参考情報の提示。またノンゲーム業界での活用事例から、XRを含めたUEの用途も学ぶ。

研修名「VRoid Studio ハロウィン特別講座～オンラインをもっと楽しもう！君だけのオリジナルアバター作成ワークショップ～」

(連携企業等: デジタルハリウッド大学)

期間: 令和3年10月27日(水) 対象: ゲームクリエイター学科担当教員

内容: 教育関係者向けの最新VRMモデル作成技術(3Dモデルデータ作成)を学び、作成コスト削減と学生への授業アプローチ方法を学ぶ。また、デジタル授業への使用用途も学ぶ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「森ゼミ教材の教職員研修」(連携企業等: 株式会社穴吹カレッジサービス)

期間: 令和3年3月18日(木) 19日(金) 対象: ゲームクリエイター学科担当教員

内容: 穴吹学園の就勝ゼミで指導された森吉弘様監修の就職活動教材の使い方、動画コンテンツの効果的な利用法を上記企業が実施

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「CEDEC+KYUSHU2021研修(福岡)」(連携企業: 株式会社レベルファイブ、株式会社ガンバリオン、株式会社サイバーネット)

期間: 令和3年11月27日(土)・28日(日) 対象: ゲームクリエイター学科担当教員

内容: 香川県では学べない福岡のゲーム会社での実務研修を上記企業が実施予定。実務にかかわる方から業務内容を学ぶことでそれぞれの企業や職種を理解し、学生への教授力向上を図る

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「相手に「伝わる」プレゼンテーションの奥義！」(連携企業等: 富士通株式会社)

期間: 令和3年12月14日(火) 対象: ゲームクリエイター学科担当教員

内容: 『わかりやすいプレゼン』の一步先を行く『あなたらしさがあり、人の心を掴むプレゼン』の極意について学ぶ

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- ① 関係者ならではの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける
- ② 自己点検評価の適性化、妥当性を客観的に評価する
- ③ 結果として職業に必要な実践的かつ専門的な能力がより修得できる改善計画をし、PDCAサイクルを繰り返し続ける

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像は、定められていますか
(2) 学校運営	運営方針は教育理念等に沿ったものになっていますか
(3) 教育活動	教育理念、育成人材像に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されていますか
(4) 学修成果	資格・免許取得率の向上が図られていますか
(5) 学生支援	退学率の低減が図られていますか
(6) 教育環境	教育上、必要、かつ、十分な種類・数の施設・設備が整備されていますか
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動を積極的、かつ、効果的に行っていますか
(8) 財務	学校及び設置者(法人)の収支、財政基盤は安定していますか
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準・各種学校規程及び関係法令の遵守と、適正な運営がなされていますか
(10) 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っていますか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会での意見を受け、平成27年度から学習支援が必要な学生のサポートとして「学びプラス」を設置し、放課後等に支援授業をしている。教員の教授力向上のために研修を実施しており、今後は研修以外にも教員のインターンシップを実施する予定。学生の就職のミスマッチを防ぐため、定期的なガイダンスで希望業種・職種や就職に対する不安などを把握する。また社会人基礎講座の授業でコミュニケーション力の向上に繋がる取り組み(卒業生座談会・グループディスカッション等)を増やしている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
小川 幸彦	元高等学校校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	高等学校 関係者
山下 達雄	香川県立高松東高等学校 校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	高等学校 関係者
石元 啓介	株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委 員
高岸 良一	株式会社たかせんテレコム	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委 員
島 薫	株式会社パオ・フィール	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委 員
細川 翔登	株式会社ジーン	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委 員
山竹 仁美	在校生保護者	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://web.anabuki-college.net/content/uploads/ack-rating2.pdf>

公表時期: 令和3年3月10日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

基本的な教育の質向上を図ることを目的とし、情報提供の基本方針を以下のように定める。

- ・教育に関わる情報について、原則、公開する
- ・定期的に更新し、最新の情報を提供するように努める
- ・情報の提供に関してはインターネットでの提供を基本とする
- ・統計的な情報については算定方法など根拠となる情報も同時に提供する
- ・個人情報の扱いに留意し、特定の個人が特定できない情報として提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校名、所在地、学校の沿革、歴史
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、時間割、年間の授業計画
(3) 教職員	教職員数(職名別)、教職員の組織、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況、実習・実技等の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支報告書、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://web.anabuki-college.net/disclosure/>

授業科目等の概要

(工業専門課程ゲームクリエイター学科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			C++ゲーム制作	C++言語の基礎的な言語仕様を理解し、さまざまなプログラミングに対応できるプログラミング技術を習得する	1前	150	5	○			○	○			
2	○			ゲーム概論	ゲーム業界の構造および、ゲーム開発における企画・制作・運営等の基本知識を学ぶ。	1前	30	2	○			○	○			
3	○			2Dゲーム素材制作演習	GIMPの機能を理解するとともに、ドット絵、UIデザイン、エフェクトの2DCGの知識を身に付ける	1前	60	2	○			○				○
4	○			ゲームアルゴリズム	プログラミングに必要な手順や計算法であるアルゴリズムについて学習し、プログラミングにおける処理手順の構築法を習得する	1前	60	4	○			○	○			
5	○			Office演習	Word、Excelの演習を通し、基本的な操作を習得し、ゲーム作成時に作成するレジュメ(発表用資料)や仕様書、企画書作成に必要なスキルを養う	1前	30	1	○			○				○
6	○			コンピュータ概論 I	情報技術の基礎的な内容(ソフトウェア、ハードウェア、ネットワーク、データベースなど)を習得する	1後	90	6	○			○	○			
7	○			2Dゲーム制作	2Dアクションゲームの制作を通してC++言語の命令や記述方法などを学び、ゲーム開発技術を習得する	1後	170	5	○			○	○			
8	○			ゲームデザイン I	ゲーム開発における企画立案方法、チーム運営方法等、プランナーとしての技術習得し、ゲーム企画書、仕様書の作成を行う	1後	30	2	○			○	○			
9	○			ゲームデザイン研究 I	デジタルゲームの研究を行い、ゲームのレベルデザイン技術及びゲーム構築能力を習得する	1後	30	1	○			○	○			
10	○			ゲームサウンド制作演習	コンピュータによる、ミュージックソフトの使い方や楽典について学び、ゲームミュージックの楽曲を制作する	1後	30	1	○			○				○
11	○			ゲーム数学演習 I	座標、ベクトル、行列などの数学の基礎を身に付け、ゲームプログラミングでの移動や回転、拡大縮小などの活用方法を習得する	1後	30	1	○			○	○			
12	○			3Dゲーム素材制作演習 I	3Dアニメーションソフト「Blender」を使用し、3Dモデルのデータ作成、アニメーションやフィールドなど、3Dゲームに利用する素材の作成を行う	1後	60	2	○			○				○

13	○		プレゼンソフト演習	PowerPointの基本操作技術を身につけ、今後のプレゼンテーションに活用できる力をつける	1後	30	1		○		○								
14		○	インターンシップ I	将来のキャリアに関連した就業体験にて、実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や職業選択について深く考え、就職活動の方向性についての基礎的な理解を得る	1後	96	3			○		○							
15	○		コンピュータ概論 II	基本情報技術者試験の範囲である、情報処理に関するストラテジーやマネジメントについての知識を習得する	2前	90	6	○			○		○						
16	○		3Dゲーム素材制作演習	3Dアニメーションソフト「Blender」を使用し、3Dモデルのデータ作成、アニメーションやフィールドなど、3Dゲームに利用する素材の作成を行う	2前	60	2		○			○							
17	○		ゲームエンジン演習	ゲームエンジン開発環境でのゲーム制作を行い、ゲームエンジンを使用したゲーム開発方法を習得する	2前	60	2		○			○		○					
18		○	3Dゲーム制作 I	基本的な3Dゲーム開発に取り組み、3Dゲーム開発手法を習得する。また、ゲーム作品のプレゼンテーションを行い、効果的なプレゼンテーションを習得する	2前	120	4		○			○		○	○	○			
19		○	ゲーム数学演習 II	座標、ベクトル、行列などの数学の基礎を身に付け、ゲームプログラミングでの移動や回転、拡大縮小などの活用方法を習得する	2前	30	1		○			○		○					
20		○	VTuber 演習	Vtuberに於ける動画・映像配信サービス技術及びビジネスモデルを学び、独自のアバター、背景データを作成しプロモーションを目指す	2前	60	2		○			○		○					
21		○	AR制作演習	AR(オーグメントリアリティ)及びMR(ミックスリアリティ)を実機で開発を習得させる	2前	90	3		○			○		○					○
22	○		情報処理対策講座	基本情報技術者試験合格のため、午後問題の各分野の対策を行う。	2後	40	2	○				○		○					
23	○		VRゲーム演習	HIVC Viveを使用したVR技術を習得する。また、ゲーム業界に限らず、今後増えていくVR業界のユーズにあった技術の習得を目指す。	2後	90	3		○			○		○					
24	○		動画制作演習	『DaVinci Resolve』を使用し、就職活動用のプロモーション動画を作成する	2後	24	0		○			○							○
25		○	3Dゲーム制作 II	本格的な3Dゲーム開発に取り組み、より深く3Dゲーム開発手法を習得する。また、ゲーム作品のプレゼンテーションを行い、効果的なプレゼンテーションを習得する	2後	226	7		○			○		○	○	○			
26		○	ゲームAI演習	ゲームに於けるキャラクターの行動をつかさどるAIの構築技術を学び、ゲームデザインに反映させ、作品のクオリティアップに貢献する	2後	30	1		○			○		○					
27		○	キャラクター制作演習	「人物キャラクター」制作を通して、高度な「モデリング、UVテクスチャリング、アマチュア・ウェイト、アニメーション」制作技術をマスターする	2後	60	2		○			○							○

28	○	Unity演習	XR 技術に於けるゲームエンジン (UnityEngine)の基礎、応用技術の習得を行う。	2 後	196	6	○	○	○	○
29	○	社会人基礎講座Ⅰ	就職活動に必要な基本的な知識、技術、マナーを学び、就職活動の流れを理解し社会人として必要なコミュニケーション能力を身につける	2 後	30	2	○	○	○	
30	○	インターンシップⅡ	将来のキャリアに関連した就業体験にて、実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や職業選択について深く考え、就職活動の方向性についての基礎的な理解を得る	2 前	96	3		○	○	○
31	○	コンシューマゲーム制作	コンシューマゲーム機 (NintendoSwitch)でのゲーム制作を行い、ハードウェア、入力デバイスの特性を理解する。	3 前	240	8	○	○	○	
32	○	ソーシャルゲームサーバ演習	Apache、PHP、MySQLを組み合わせたWebアプリケーションを作成する技術を習得し、Webアプリケーションとデータベースの設計を理解する	3 前	90	3	○	○	○	
33	○	社会人基礎講座Ⅱ	基本となる「就業意識」を醸成し、実際の就職活動に即した必要な知識・技術を学習、単に内定を獲得するだけでなく、就職後も「より良き社会人・企業人」への理解を得る	3 前	30	2	○	○	○	
34	○	卒業制作	プロジェクトチームを作り、チームメンバーと協調し、これまで学んできた知識や技術の集大成としたゲームソフトの制作を行う	3 後	350	11	○	○	○	○
35	○	ビックデータ活用演習	新しい技術、市場調査、ニーズの分析を行い、新規ゲームの企画書を作成する。	3 後	60	4	○	○	○	
36	○	ビジネス実務	会社で信頼され、評価される社員像を理解し、それを長期の就労に活かすことを目標に「働く理由」を理解する	3 後	30	2	○	○	○	
37	○	インターンシップⅢ	将来のキャリアに関連した就業体験にて、実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や職業選択について深く考え、就職活動の方向性についての基礎的な理解を得る	3 前	96	3		○	○	○
合計				37科目	2400単位時間 (93単位)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
①必修及び選択必修全科目の成績がC評価以上		1学年の学期区分	2期
②必修及び選択必修全科目の出席が90%以上		1学期の授業期間	15週
上記条件を両方満たした学生に対して進級・卒業を認定する			

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																			
専門学校穴吹コンピュータカレッジ		昭和61年3月25日		篠原 達司		〒760-0017 香川県高松市番町2-4-14 (電話) 087-822-3001																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																			
学校法人穴吹学園		平成3年4月1日		穴吹 忠嗣		〒760-0020 香川県高松市錦町1-22-23 (電話) 087-823-2266																			
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																		
工業	工業専門課程	ネットワークセキュリティ学科				平成31年文部科学省 告示第3号	—																		
学科の目的	コンピュータ全般の知識、情報セキュリティ、ネットワーク設計、サーバ構築技術を修得させ、サイバー攻撃から情報資産を守るため情報セキュリティ技術と企画提案力を兼ね備えた人材を養成する																								
認定年月日	令和2年3月25日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	時間																	
2年	0	1700時間	240時間	1460時間	0時間	0時間	0時間	0時間																	
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
30人	22人	0人	5人	2人	7人																				
学期制度	■前期: 4月1日～8月31日 ■後期: 9月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 年2回の期末に各科目ごとの評価を行う 評価基準はA,B,C,Dの4段階とする																				
長期休み	■学年始: 4月 1日 ■夏季: 7月～8月で校長が定めた期間 ■冬季: 12月～1月で校長が定めた期間 ■学年末: 3月31日			卒業・進級条件	①必修及び選択必修全科目の成績がC評価以上 ②必修及び選択必修全科目の出席が90%以上 上記条件を両方満たした学生に対して進級・卒業を認定する																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任が電話連絡や定期的なガイダンス実施、場合によっては保護者を交えたガイダンスなども早期に実施し、保護者と連携して問題解決をする			課外活動	■課外活動の種類 ・地域清掃のボランティア ・学園祭等の実行委員会など ・IT研修の実施 ■サークル活動: 有																				
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) システムエンジニア職、ネットワークエンジニア職、ウェブシステムエンジニア職、プログラマー職、システム運用管理職 等 ■就職指導内容 担任と就職担当職員が連携を取り、希望企業の斡旋し面接指導を繰り返す ■卒業生数 9 人 ■就職希望者数 9 人 ■就職者数 9 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 (令和2年度卒業者に関する 令和3年5月1日 時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>情報セキュリティマネジメント</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	基本情報技術者	③	9人	3人	情報セキュリティマネジメント	③	3人	0人				
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
基本情報技術者	③	9人	3人																						
情報セキュリティマネジメント	③	3人	0人																						
中途退学の現状	■中途退学者 0名 令和2年4月1日時点において、在学者2名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者2名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中退防止・中退者支援のための取組 欠課率が5%を超えた段階で担任とのガイダンスを行い、その後、教務部部長(保護者同席)とのガイダンスを行う 経済的な問題の場合は、事務局のガイダンスを覆ない、解決策を探す 精神的な問題の場合は、教員で対応できるレベルを超えた場合は外部カウンセラーに依頼する			■中途退学 0%																					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無 ・穴吹学園経済的支援奨学生制度 ・穴吹カレッジ学費分割制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象																								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無																								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 企業や各種団体等との連携により、該当学科で必要とされる知識や技術について、カリキュラムの改善・構築等を目的とした教育課の編成を行う。卒業後、即戦力となれる専門性と社会性を兼ね備えた人材を育成するため、カリキュラム内容については、連携企業や団体等と意見交換を行い、常に時代のニーズに即しているか定期的に点検を行い、改善を盛り込む

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
 カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設立し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 令和3年10月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
溝渕 俊寛	香川県情報サービス産業協議会	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	①
葉田 佳孝	西日本電信電話株式会社 香川支店	令和3年年4月1日～ 令和3年7月31日	③
北川 智之	西日本電信電話株式会社 香川支店	令和3年年8月1日～ 令和4年3月31日	③
古川 康造	高松丸亀町商店街振興組合	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	③
瀧下 直樹	株式会社ジーン 第1開発事業部 技術部 高松開発室	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	③
石元 啓介	株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	③
篠原 達司	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 校長	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	
戸倉 潤也	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 副校長	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	
塩田 和正	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 課長	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	
榎本 靖之	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 担当課長	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	

※委員の種別の欄には、**企業等委員の場合には**、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
 (年間の開催数及び開催時期)
 年2回 (12月、2月)
 (開催日時(実績))
 第1回 令和2年12月22日 10:00～12:00
 第2回 令和3年 2月26日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
 ITに関わる教育を行う学校として、IT人材を育てたいという社会の流れに上手に協調できる為には何が必要かという問題意識が必要である。カリキュラム策定するにあたって、地元香川県、高松市が求めているIT人材とはどのような人材をいうのかを、チェックすることも必要ではないかとの意見をいただいた。広報就職・キャリアセンターと連携し、卒業生の活躍状況等の情報を分析しカリキュラムの検討を行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 業界で求められる必須の専門知識や実践的なシステム開発技術の修得はもとより、交渉力、プレゼン力などのコミュニケーションスキルなども身に付けることが出来るよう、それぞれの専門職に特化したカリキュラム・授業内容を連携企業や各種団体等と協力して構築・実施する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 学生にとって効果的な授業となるよう、当校における授業科目の目的や内容を事前にしっかりと打ち合わせを行い、企業と学校が共通理解・共通努力をする。科目の全時間を企業が担当する場合は、シラバスを授業担当者がその期が始まる前に作成し、年度末に行われる各学科の担当者会議に持ち寄り意見交換し授業内容を決定する。また、担当の授業部分に関しては、期末に成績評価を企業担当者が行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
情報セキュリティ	ITインフラストラクチャのエンジニアとして必須のセキュリティ技術と知識を、CompTIA Security+のテキストや、連携企業のセキュリティ専門家の特別講義などで身につける。	株式会社ラック
インシデント演習	システム運用時に起こる様々なインシデントを発見し、現象を把握して報告する流れを習得するために、連携企業のsecurity専門家の特別講義などで身につける	株式会社ラック

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 教職員研修規程に従い、新たに採用した教職員に対して「新任者研修」、管理職教職員に対して「管理職研修」、専門分野における実務に関する「養成研修」を教職員の業務経験や能力に応じて実施する。
 「養成研修」は、該当学科の教育に必要な専門知識や技術、技能の修得と、企業人として不可欠であるキャリアプランニングやマネジメント能力、コミュニケーションスキルなどの指導力向上を目的とし、企業や各種団体等との連携のもと、実践的な研修を計画的に実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「シスコネットワークングアカデミーアップデートとテクニカルソリューションズアーキテクト」(連携企業等: Training Center Japan(TCJ))

期間: 令和2年8月18日(火) 対象: ネットワークセキュリティ学科担当教員

内容: シスコシステムズ合同会社の認定カリキュラムにおける最新技術動向

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「新しい時代に向けた IT エンジニア育成の重要性」(連携企業等: シスコシステムズ合同会社)

期間: 令和2年8月18日(火) 対象: ネットワークセキュリティ学科担当教員

内容: ITエンジニアに特化した学生への教授方法および指導力向上を目的とする研修

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「OpenLDAPセミナー LPIC深堀シリーズ、OpenLDAPの機能紹介」(連携企業等: Linux Professional Institute (LPI) 日本支部)

期間: 令和3年11月20日(土) 対象: ネットワークセキュリティ学科担当教員

内容: LDAPができることを再度確認し、「最後の締めくくり」としてOpenLDAPを解説するセミナー

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「相手に「伝わる」プレゼンテーションの奥義！」(連携企業等: 富士通株式会社)

期間: 令和3年12月14日(火) 対象: ネットワークセキュリティ学科担当教員

内容: 『わかりやすいプレゼン』の一步先を行く『あなたらしさがあり、人の心を掴むプレゼン』の極意について学ぶ

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- ① 関係者ならではの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける
- ② 自己点検評価の適性化、妥当性を客観的に評価する
- ③ 結果として職業に必要な実践的かつ専門的な能力がより修得できる改善計画をし、PDCAサイクルを繰り返し続ける

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像は、定められていますか
(2) 学校運営	運営方針は教育理念等に沿ったものになっていますか
(3) 教育活動	教育理念、育成人材像に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されていますか
(4) 学修成果	資格・免許取得率の向上が図られていますか
(5) 学生支援	退学率の低減が図られていますか
(6) 教育環境	教育上、必要、かつ、十分な種類・数の施設・設備が整備されていますか
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動を積極的、かつ、効果的に行っていますか
(8) 財務	学校及び設置者(法人)の収支、財政基盤は安定していますか
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準・各種学校規程及び関係法令の遵守と、適正な運営がなされていますか
(10) 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っていますか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会での意見を受け、平成27年度から学習支援が必要な学生のサポートとして「学びプラス」を設置し、放課後等に支援授業をしている。教員の教授力向上のために研修を実施しており、今後は研修以外にも教員のインターンシップを実施する予定。学生の就職のミスマッチを防ぐため、定期的なガイダンスで希望業種・職種や就職に対する不安などを把握する。また社会人基礎講座の授業でコミュニケーション力の向上に繋がる取り組み(卒業生座談会・グループディスカッション等)を増やしている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
小川 幸彦	元高等学校校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	高等学校関係者
山下 達雄	香川県立高松東高等学校 校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	高等学校関係者
石元 啓介	株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委員
高岸 良一	株式会社たかせんテレコム	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委員
島 薫	株式会社パオ・フィール	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委員
細川 翔登	株式会社ジーン	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委員
山竹 仁美	在校生保護者	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://web.anabuki-college.net/content/uploads/ack-rating2.pdf>

公表時期: 令和3年3月10日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

基本的な教育の質向上を図ることを目的とし、情報提供の基本方針を以下のように定める。

- ・教育に関わる情報について、原則、公開する
- ・定期的に更新し、最新の情報を提供するように努める
- ・情報の提供に関してはインターネットでの提供を基本とする
- ・統計的な情報については算定方法など根拠となる情報も同時に提供する
- ・個人情報の扱いに留意し、特定の個人が特定できない情報として提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校名、所在地、学校の沿革、歴史
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、時間割、年間の授業計画
(3) 教職員	教職員数(職名別)、教職員の組織、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況、実習・実技等の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支報告書、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://web.anabuki-college.net/disclosure/>

授業科目等の概要

(工業専門課程ネットワークセキュリティ学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			コンピュータ概論	国家資格(基本情報技術者・応用情報技術者)取得に必要な、情報技術の基本的な知識を習得する	1前	120	8	○			○		○		
2	○			表計算	国家資格(基本情報技術者)取得に必要な、表計算・プログラミングの基本的な知識を習得する	1前	60	2		○		○		○		
3	○			アルゴリズム	プログラミングに必要な手順や計算法であるアルゴリズムについて学習し、国家資格(基本情報技術者)の科目(フローチャート・擬似言語)の理解度を高める	1前	60	2		○		○		○		
4	○			ネットワーク概論	国家資格(基本情報技術者)取得に必要な、ネットワーク・セキュリティの基本的な知識を習得する	1前	30	2	○			○		○		
5	○			システム開発概論	国家資格(基本情報技術者)取得に必要な、コンピュータシステムの開発技術やマネジメント知識を習得する	1前	90	3		○		○		○		
6	○			サーバー構築演習Ⅰ	Linuxの代表的なコマンドとオプションの使い方を知り、各種サービスの設定方法を習得する	1前	60	2		○		○			○	
7	○			ネットワーク演習基礎	TCP/IPの基本的な知識を習得し、ルータ・スイッチの基本的な設定を習得する	1後	90	3		○		○		○		
8	○			情報処理講座Ⅰ	国家資格(基本情報技術者、情報セキュリティマネジメント)の分野別対策を行い、問題解答を通じて、応用力を習得する	1後	80	2		○		○		○		
9	○			サーバー構築演習Ⅱ	内部サーバ・外部サーバそれぞれに適した構築と設定を習得し、稼働しているサーバの運用管理の手法とセキュリティ対策の方法を習得する	1後	120	4		○		○			○	
10	○			情報セキュリティ	基本的なネットワークやセキュリティに関する知識や技術を学び、国家資格(基本情報技術者)やCompTIA Security+の取得ができるレベルを目指す	1後	90	3		○		○		○		○
11	○			社会人基礎講座Ⅰ	一般常識・マナーについて学ぶとともに、自己分析を行い就職活動でアピールできる材料を準備する	1後	30	2	○			○		○		
12	○			業界研究(IT企業)	就職活動において必要となる希望企業に対してアピール力のある志望動機を作成するために、IT業界の今後の動向・流れを知り、積極的な情報収集テクニックを身につける	1後	20	0	○			○		○		

13			○	インターンシップⅠ	将来のキャリアに関連した就業体験にて、実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や職業選択について深く考え、就職活動の方向性についての基礎的な理解を得る	1後	96	2				○	○					
14	○			ネットワーク演習応用	VLANやEtherChannel、マルチエリアOSPFなどの高度なネットワーク技術を習得し、デフォルトゲートウェイの冗長化やVLAN間ルーティングのトラブルシュートを的確に行う力を身に付ける	2前	120	4				○	○	○				
15	○			サイバー攻撃・防御演習	仮想環境を使って、安全な環境下でXSSやSQLインジェクションなど、様々な攻撃手法とその防御方法を実践的に習得する	2前	90	3				○	○	○				
16	○			情報処理講座Ⅱ（安全支援士・セキュマネ）	国家資格（情報処理安全確保支援士、情報セキュリティマネジメント）の分野別対策を行い、問題解答を通じて、応用力を習得する	2前	90	3				○	○	○				
17	○			AWSクラウド演習	基本的なAWS（Amazon Web Service）のサービスを利用するうえで必要な基本的な知識を学ぶ	2前	60	2				○	○	○				
18	○			セキュアプログラミング演習Ⅰ	PHPを使ったwebアプリケーションの作成するスキルを養うとともに、MySQLを使ってのSQLを学習する	2前	90	3				○	○	○				
19	○			セキュアプログラミング演習Ⅱ	Webアプリケーションに起こりうる脆弱性の問題と対策について学習し、PHP、データベース利用における安全なWebサイトの実装を学習する	2後	60	2				○	○	○				
20	○			社会人基礎講座Ⅱ	一般常識・マナーについて学ぶとともに、自己分析を行い就職活動でアピールできる材料を準備する	2前	30	2	○				○	○				
21	○			インシデント演習	ネットワークとサーバの構築技術を組み合わせ、総合的なシステムを構築し、システム運用時に起こる様々なインシデントを発見し、現象を把握して報告する流れを習得する	2後	90	3				○	○	○				○
22	○			セキュリティ実践演習	習得したネットワーク・サーバ構築・セキュリティの技術を活かし、様々な問題を設問し、学内トラブルシューティングコンテストの企画・環境構築・準備・開催までを行っていく	2後	130	4				○	○	○				
23	○			ビッグデータ活用演習	就職後、IT専門知識以外の知識として社会に出て役に立つ知識を身に付けさせるため、マーケティング・データ分析・整理手法の基礎を学ぶ	2後	60	2				○	○					○
24	○			社会人基礎講座Ⅲ	会社で信頼され、評価される社員像を理解し、それを長期の就労に活かすことを目標に「働く理由」を理解する	2後	30	2	○				○	○				
25			○	インターンシップⅡ	将来のキャリアに関連した就業体験にて、実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や職業選択について深く考え、就職活動の方向性についての基礎的な理解を得る	2後	96	2				○	○					
合計							25科目	1700単位時間					(67単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
専門学校穴吹コンピュータカレッジ		昭和61年3月25日		篠原 達司		〒760-0017 香川県高松市番町2-4-14 (電話) 087-822-3001																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人穴吹学園		平成3年4月1日		穴吹 忠嗣		〒760-0020 香川県高松市錦町1-22-23 (電話) 087-823-2266																							
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																						
工業	工業専門課程	情報ビジネス学科				平成15年文部科学省 告示第21号	—																						
学科の目的	ビジネスソフトやWeb・動画編集技術の修得、地域の商店街や学校と連携したイベント(パソコン教室・商店街のホームページ制作等)の企画・運営などを通して、IT活用技術とコミュニケーションスキルを兼ね備えた人材を養成する																												
認定年月日	平成26年3月31日																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																						
	2年 屋間	1700時間	300時間	1400時間	0時間	0時間	0時間																						
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																							
30人		28人	0人	2人	4人	5人																							
学期制度	■前期: 4月1日～8月31日 ■後期: 9月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 年2回の期末に各科目ごとの評価を行う 評価基準はA,B,C,Dの4段階とする																								
長期休み	■学年始: 4月 1日 ■夏季: 7月～8月で校長が定めた期間 ■冬季: 12月～1月で校長が定めた期間 ■学年末: 3月31日			卒業・進級 条件	①必修及び選択必修全科目の成績がC評価以上 ②必修及び選択必修全科目の出席が90%以上 上記条件を両方満たした学生に対して進級・卒業を認定する																								
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任が電話連絡や定期的なガイダンス実施、場合によっては保護者を交えたガイダンスなども早期に実施し、保護者と連携して問題解決をする			課外活動	■課外活動の種類 ・地域清掃のボランティア ・学園祭等の実行委員会など ・IT研修の実施 ■サークル活動: 有																								
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) PCインストラクタ職、画像処理・編集職、事務職、販売職、営業職 等			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者にに関する令和3年5月1日時点の情報)																								
	■就職指導内容 担任と就職担当職員が連携を取り、希望企業の斡旋し面接指導を繰り返す				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Microsoft Office Master</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>Webクリエイター(エキスパート)</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	Microsoft Office Master	③	13人	8人	Webクリエイター(エキスパート)	③	13人	12人								
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																								
	Microsoft Office Master	③	13人		8人																								
	Webクリエイター(エキスパート)	③	13人		12人																								
■卒業者数 13 人			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。																										
■就職希望者数 13 人			①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの																										
■就職者数 13 人			②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの																										
■就職率 100 %			③その他(民間検定等)																										
■卒業者に占める就職者の割合			■自由記述欄																										
■その他 : 100 %																													
(令和2年度卒業者にに関する 令和3年5月1日 時点の情報)																													
中途退学 の現状	■中途退学者 1名			■中退率 4%																									
	令和2年4月1日時点において、在学者25名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者24名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更の為																												
経済的支援 制度	■中退防止・中退者支援のための取組 欠課率が5%を超えた段階で担任とのガイダンスを行い、その後、教務部部長(保護者同席)とのガイダンスを行う 経済的な問題の場合は、事務局のガイダンスを覆ない、解決策を探す 精神的な問題の場合は、教員で対応できるレベルを超えた場合は外部カウンセラーに依頼する																												
	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無 ・穴吹学園経済的支援奨学生制度 ・穴吹カレッジ学費分割制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象																												
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無																												

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 企業や各種団体等との連携により、該当学科で必要とされる知識や技術について、カリキュラムの改善・構築等を目的とした教育課の編成を行う。卒業後、即戦力となれる専門性と社会性を兼ね備えた人材を育成するため、カリキュラム内容については、連携企業や団体等と意見交換を行い、常に時代のニーズに即しているか定期的に点検を行い、改善を盛り込む

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設立し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年10月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
溝 淵 俊 寛	香川県情報サービス産業協議会	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	①
葉 田 佳 孝	西日本電信電話株式会社 香川支店	令和3年年4月1日～ 令和3年7月31日	③
北 川 智 之	西日本電信電話株式会社 香川支店	令和3年年8月1日～ 令和4年3月31日	③
古 川 康 造	高松丸亀町商店街振興組合	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	③
瀧 下 直 樹	株式会社ジーン 第1開発事業部 技術部 高松開発室	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	③
石 元 啓 介	株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	③
篠 原 達 司	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 校長	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	
戸 倉 潤 也	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 副校長	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	
塩 田 和 正	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 課長	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	
榎 本 靖 之	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 担当課長	令和3年年4月1日～ 令和4年3月31日	

※委員の種別の欄には、**企業等委員の場合には**、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (12月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年12月22日 10:00～12:00

第2回 令和3年 2月26日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

ITに関わる教育を行う学校として、IT人材を育てたいという社会の流れに上手に協調できる為には何が必要かという問題意識が必要である。カリキュラム策定するにあたって、地元香川県、高松市が求めているIT人材とはどのような人材をいうのかを、チェックすることも必要ではないかとの意見をいただいた。広報就職・キャリアセンターと連携し、卒業生の活躍状況等の情報を分析しカリキュラムの検討を行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 業界で求められる必須の専門知識や実践的なシステム開発技術の修得はもとより、交渉力、プレゼン力などのコミュニケーションスキルなども身に付けることが出来るよう、それぞれの専門職に特化したカリキュラム・授業内容を連携企業や各種団体等と協力して構築・実施する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 学生にとって効果的な授業となるよう、当校における授業科目の目的や内容を事前にしっかりと打ち合わせを行い、企業と学校が共通理解・共通努力をする。科目の全時間を企業が担当する場合は、シラバスを授業担当者がその期が始まる前に作成し、年度末に行われる各学科の担当者会議に持ち寄り意見交換し授業内容を決定する。また、担当の授業部分に関しては、期末に成績評価を企業担当者が行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
メディアデザイン実習	PhotoshopやIllustratorの実用的な使い方を習得し、より実践的なコンテンツを制作、グラフィックスの制作技術の基礎を、実習を通じて習得、コンテンツ制作の周辺知識についても理解を得る	高松丸亀町商店街振興組合
Webサイト実践演習	デザイン重視のWebページ制作を実践形式で学習・制作し、企画書にて実務レベルを知り、Web制作フローの理解、サイトデザイン・アーキテクトにそったWebデザインについて理解を得る	高松丸亀町商店街振興組合

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 教職員研修規程に従い、新たに採用した教職員に対して「新任者研修」、管理職教職員に対して「管理職研修」、専門分野における実務に関する「養成研修」を教職員の業務経験や能力に応じて実施する。
 「養成研修」は、該当学科の教育に必要な専門知識や技術、技能の修得と、企業人として不可欠であるキャリアプランニングやマネジメント能力、コミュニケーションスキルなどの指導力向上を目的とし、企業や各種団体等との連携のもと、実践的な研修を計画的に実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「志願者とのリレーション研修」(連携企業等:株式会社エデュース)
 期間:令和2年9月1日(火) 対象:教職員
 内容:オープンキャンパスとそこからの志願者リレーションを今以上に良いものにするを目的とした研修

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「森ゼミ教材の教職員研修」(連携企業等:株式会社穴吹カレッジサービス)
 期間:令和3年3月18日(木)19日(金) 対象:情報ビジネス学科担当教員
 内容:穴吹学園の就勝ゼミで指導された森吉弘様監修の就職活動教材の使い方、動画コンテンツの効果的な利用法を上記企業が実施

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「デザイン思考～デザイン思考の基礎～」(連携企業等:富士通株式会社)
 期間:令和4年1月11日(火) 対象:情報ビジネス学科担当教員
 内容:デザイン思考とはどのように考える思考法なのか

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「相手に「伝わる」プレゼンテーションの奥義！」(連携企業等:富士通株式会社)
 期間:令和3年12月14日(火) 対象:情報ビジネス学科担当教員
 内容:『わかりやすいプレゼン』の一步先を行く『あなたらしさがあり、人の心を掴むプレゼン』の極意について学ぶ

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- ① 関係者ならではの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける
- ② 自己点検評価の適性化、妥当性を客観的に評価する
- ③ 結果として職業に必要な実践的かつ専門的な能力がより修得できる改善計画をし、PDCAサイクルを繰り返し続ける

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像は、定められていますか
(2) 学校運営	運営方針は教育理念等に沿ったものになっていますか
(3) 教育活動	教育理念、育成人材像に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されていますか
(4) 学修成果	資格・免許取得率の向上が図られていますか
(5) 学生支援	退学率の低減が図られていますか
(6) 教育環境	教育上、必要、かつ、十分な種類・数の施設・設備が整備されていますか
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動を積極的、かつ、効果的に行っていますか
(8) 財務	学校及び設置者(法人)の収支、財政基盤は安定していますか
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準・各種学校規程及び関係法令の遵守と、適正な運営がなされていますか
(10) 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っていますか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会での意見を受け、平成27年度から学習支援が必要な学生のサポートとして「学びプラス」を設置し、放課後等に支援授業をしている。教員の教授力向上のために研修を実施しており、今後は研修以外にも教員のインターンシップを実施する予定。学生の就職のミスマッチを防ぐため、定期的なガイダンスで希望業種・職種や就職に対する不安などを把握する。また社会人基礎講座の授業でコミュニケーション力の向上に繋がる取り組み(卒業生座談会・グループディスカッション等)を増やしている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
小川 幸彦	元高等学校校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	高等学校関係者
山下 達雄	香川県立高松東高等学校 校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	高等学校関係者
石元 啓介	株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委員
高岸 良一	株式会社たかせんテレコム	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委員
島 薫	株式会社パオ・フィール	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委員
細川 翔登	株式会社ジーン	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委員
山竹 仁美	在校生保護者	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: <https://web.anabuki-college.net/content/uploads/ack-rating2.pdf>

公表時期: 令和3年3月10日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

基本的な教育の質向上を図ることを目的とし、情報提供の基本方針を以下のように定める。

- ・教育に関わる情報について、原則、公開する
- ・定期的に更新し、最新の情報を提供するように努める
- ・情報の提供に関してはインターネットでの提供を基本とする
- ・統計的な情報については算定方法など根拠となる情報も同時に提供する
- ・個人情報の扱いに留意し、特定の個人が特定できない情報として提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校名、所在地、学校の沿革、歴史
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、時間割、年間の授業計画
(3) 教職員	教職員数(職名別)、教職員の組織、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況、実習・実技等の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支報告書、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://web.anabuki-college.net/disclosure/>

授業科目等の概要

(工業専門課程情報ビジネス学科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			パソコン演習 (Word)	一般的に最も良く使われるOffice系ソフト (Word) の基礎から応用までの機能を学習し、MOS試験の試験対策をする。	1前	60	2	○			○				○
2	○			パソコン演習 (Excel)	一般的に最も良く使われるOffice系ソフト (Excel) の基礎から応用までの機能を学習し、MOS試験の試験対策をする。	1前	60	2	○			○				○
3	○			パソコン演習 (PowerPoint)	一般的に最も良く使われるOffice系ソフト (PowerPoint) の基礎から応用までの機能を学習し、MOS試験の試験対策をする。	1前	30	1	○			○				○
4	○			Webサイト演習 I	Webページを制作するための基礎知識 (構成、HTML/CSSコーディング、画面デザイン) について学習し、Webクリエイター試験の合格を目指す。	1前	120	4	○			○				○
5	○			PC演習	パソコンの構造やインターネットの仕組み、ソフトウェアのインストールなどを学び、日常生活の中でパソコンを活用するために必要な基礎知識や技術を身に付ける。	1前	30	1	○			○		○		
6	○			メディアデザイン演習	PhotoshopとIllustratorの基本操作を習得し、実務に則した技能を養い検定取得を目指す。	1通	90	3	○			○				○
7	○			ビジネス文書	社内や取引先との間で交わされる報告書、礼状など、様々なビジネスシーンで使われるビジネス文書作成時に必要な知識を養う。	1前	60	4	○			○		○		
8	○			メディアデザイン実習	丸亀町商店街とのコラボイベントの準備、運営を行い実務技能を養う。お客様に対する接客マナーを学ぶ。	1後	60	2	○			○		○		○
9	○			パソコン演習 (Access)	データ抽出や集計できるリレーショナルデータベースソフトウェア (Access) の機能を学び、MOS試験の試験対策をする。	1後	30	1	○			○				○
10	○			コンピュータリテラシ	職業人となり機器およびシステムの把握や、担当業務の遂行およびシステム化を推進するために必要な基礎知識を学習し、国家試験のITパスポート試験合格を目指す。	1後	90	6	○			○		○		
11	○			Webサイト演習 II	Webサイト演習 I で身に付けた知識や技術を応用し、就職活動等で見せるためのオリジナルWebページを作成する。	1後	60	2	○			○				○

25	○		パソコン教育 演習	今まで培ってきたパソコン操作の知識、技術やコミュニケーション力を活かし、地域教育現場(高校)の生徒達や後輩たちにパソコン操作の正しい理解を得られるよう指導する。	2 後	90	3		○	○	○			
26	○		ビッグデータ 活用演習	マーケティングの基本、データ分析・整理手法の基礎を学習しグループごとにオープンデータを収集、分析する。分析後に得た、問題点や改善点を発表する。	2 後	60	2		○	○			○	
27	○		コミュニケーション 体育Ⅱ	コミュニケーション力を高めることに重点を置き、学生間で役割を分担、企画・運営し、実践的によりコミュニケーション力、行動力を高め総合的な人間力の重要性について理解を得る	2 後	30	1		○		○	○		
28	○		社会人基礎講 座Ⅲ	会社で信頼され、評価される社員像を理解し、それを長期の就労に活かすことを目標に「働く理由」を理解する。	2 後	30	2	○		○		○		
29		○	インターン シップⅡ	将来のキャリアに関連した就業体験にて、実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や職業選択について深く考え、就職活動の方向性についての基礎的な理解を得る	2 後	96	2			○		○		
合計					29科目	1700単位時間(66単位)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
①必修及び選択必修全科目の成績がC評価以上	上記条件を両方満たした学生に対して進級・卒業を認定する	1学年の学期区分	2期
②必修及び選択必修全科目の出席が90%以上		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。